

〔論 文〕

役割語としての〈ヨータ語〉の日独訳

細 川 裕 史

I はじめに

言語がもつ社会シンボル機能を見抜ける人でないと、言語を正確に運用することは難しい……。「論破王」としても話題[の]ひろゆき氏が論破されるとネット上で大騒ぎになった」(デイリー新潮2021.8.6) 一件¹⁾は、「単なる強調のために使ったりしたら、[…][無教養][無頼漢][最下層階級]…と烙印を」(小島2021.7.7 [10]) 押されてしまう罵倒語のように、特定の強い社会シンボル機能をもった語を翻訳すること、そして翻訳を通じてそのような語をふくむ発話を理解しようとするものの難しさを、改めて認識させた²⁾。筆者自身もかつて、日本語訳でしか知らなかったため本来の言語がもっていた社会シンボル機能を認識できなかった経験がある。それは、ドイツ留学中にしてしまった〈ヨータ語〉に関する勘違いである。ある講義において、言語変種の一例として映画スター・ウォーズ・シリーズの登場人物ヨータの言葉遣いが挙げられたさい、同シリーズをもっぱら日本語版で視聴していた筆者は、それが主人公の師匠役にふさわしい〈老人語〉の例として挙げられたのだと思い込んでいた。しかし、そばでクスクス笑っていたドイツ人のクラスメイトたちにとっては、それはまったく違う印象を与えるもの、「遠い昔、はるか彼方の銀河系で話されている言語[であり]まさに地球外のもの」(Levshina 2020.10.5) だったのである。

そこで本論文では、ドイツでは「スター・ウォーズのファンでなくとも聞いたことがあるに違いない」(ebd.) とされる〈ヨータ語〉を一例として、特定の社会シンボル機能と結びついた言語変種の翻訳の問題について、日独訳を比

較することによって考察してみたい。なお、スター・ウォーズ・シリーズには小説やコミックなど、膨大な作品群が含まれているが、本論文では「正史」とされる映画作品のうち、劇中にヨータが登場するエピソード1～3および5～6のみを研究対象とする³⁾。

II 役割語としての〈ヨータ語〉

1. 社会語用論の視点からみた役割語

「役割語」を、金水(2003)は以下のように定義している⁴⁾。

ある特定の言葉づかい[…]を聞くと特定の人物像[…]を思いうかべることができるとき、あるいはある特定の人物像を提示されると、その人物がいかにも使用しそうな言葉づかいを思いうかべることができるとき、その言葉づかいを「役割語」と呼ぶ。(金水2003: 205)

この役割語は、「多くの場合、現実の社会的グループに特有の表現が[…]整理・単純化され、一定の語形が繰り返し使われることで」(金水2014b: xiii) 定着していく。また、「特定の作者の想像力から生み出された話し方が、後続する作品で受け継がれ」(金水2014b: xiv) 役割語として認識されるケースもある。したがって、役割語にとって重要な要素は、実際の言語使用状況ではなく、それぞれの言語共同体における慣習と(ステレオタイプのな)認識である⁵⁾。役割語の使用例はしばしばコミックから採られるが、文学作品においても、登場人物の人物像を描き出すために地域方言的な言語変種を用いる

例がみられ、また、コミックに登場する「博士」や「お嬢様」、「中国人」といった非現実のキャラクターによる使用例がしばしば強調されるが、役割語は現実社会における日常会話でも使用されている⁶⁾。

細川(2011, 2019)で指摘したように、この役割語は、社会語用論的語史研究の視点からみれば、言語意識のうち社会シンボル機能に関する知識と密接に結びついた言語変種といえる。すなわち、「老人らしい」とか「侍らしい」といった特定のアイデンティティ構成のレベルにおける言語意識と不可分の言語変種である⁷⁾。ドイツ語圏では、この研究分野において、地域方言や社会方言に対して言語共同体が一致して抱えているステレオタイプの価値判断に基づいた「威信および烙印の要素」(Löfller 2010: 114)の研究がおこなわれており、とりわけ、近年では社会方言に関する(専門家以外の)言語意識やその影響を扱う研究が増えているという⁸⁾。

このような言語変種と人物像との結びつきは、あくまでも個々人の言語意識に基づくものであるため、同じ言語変種であっても、聞き手や読み手によって特定のアイデンティティを想起させる程度に差がある。この差については、金水(2017)において、「役割語度」として以下のように説明されている。

強く特定の話者像を限定させるような役割語は「役割語度が高い」と言え、逆に多くの話者に適応可能な話し方は、「役割語度が低い」と言える。最も役割語度が低いのは、「標準語」(共通語とも)であると言うことができる。(金水2017: 242)

創作物においては、読者に自己同一視させるため、主人公には「役割語度の高い話し方は避けられる傾向にある」(金水2017: 245)が、作品によっては主人公が標準的でない言語変種を使い、標準的な言語変種が特定の人物像を想起させる役割語として機能している場合もある⁹⁾。

たとえば、〈ヨード語〉の日本語訳の例として後述する「わし〜じゃ」という言葉遣いは、先行研究においてはしばしば、〈老人語〉として役割語の典型例のように紹介されているが、「老人」や「博士」だけでなく、場合によっては「原爆孤児」というアイデンティティと結びついた言葉遣いとしても用いられている¹⁰⁾。そのため、もっぱら「侍」という特定のアイデンティティとだけ結びついた「拙者〜ござる」という言葉遣いに比べれば、役割語度が低いといえる¹¹⁾。翻訳に関していえば、役割語度の低い言語変種は、想起されるグループが目標言語を使用する言語圏にも存在する可能性が高いため、翻訳が可能あるいは容易であるかもしれないが、役割語度の高い言語変種は、想起されるグループあるいはキャラクターが起点言語が使用されている言語圏にしか存在しない可能性が高いため、翻訳は容易ではない¹²⁾。

2. 役割語の分類

ドイツ語の(音声言語における)言語変種の分類は、先行研究における役割語の分類と大部分が重複している。『〈役割語〉小辞典』(2014)の分類では、1. 性差(〈男ことば〉、〈女ことば〉など)、2. 年齢・世代(〈老人語〉、〈幼児語〉など)、3. 職業・階層(〈やくざことば〉、〈軍隊語〉など)、4. 地域(地域方言、ピジンなど)、5. 時代(〈武士ことば〉、〈遊女ことば〉など)、6. 人間以外(〈宇宙人語〉、〈動物語〉など)が挙げられているが、たとえば〈遊女ことば〉のように「性差」、「職業」、「時代」など複数のカテゴリーに分類できるものもある¹³⁾。こうした言語変種は、地球の日常に存在・現存しないグループをのぞけば、ほぼ社会言語学の分野で扱われている。たとえば、Löfller(2010)は、言語変種の分類カテゴリーとして、A. 性差、B. 年齢・世代、C. 言語機能、D. 社会集団、E. 地域、F. 相互作用、G. 個人の帰属意識を挙げている¹⁴⁾。同書は現実世界におけるドイツ語話者を対象とした研究を扱っているので、「6. 人間以外」というカテゴリーはないが、性差や年齢・世代、社

会集団、地域にもとづく変種は『〈役割語〉小辞典』と同様である。また、「5. 時代」についても、「D. 社会集団」として歴史上の社会集団を対象とした研究が紹介されている¹⁵⁾。

「C. 言語機能」のカテゴリーに分類されるのは、言語機能という観点から分類された言語変種で、たとえば交話的機能が重視される日常会話における言葉遣いや、指示的機能が重視される行政機関や学界での言葉遣などが挙げられる。日常会話で用いられる〈交際語 (Umgangssprache)〉が「親密な」印象を与える一方で、〈お役所ことば〉は「権威主義的な」、〈学者ことば〉は「エリート的な」人物像を想起させる¹⁶⁾。「F. 相互作用」には、言語使用者が所属する社会集団（その集団における地位や役割）や発話状況（言語使用者の意図や評価）、社会的相互作用（集団の方針や集団内における役割の影響）などの視点からみたテキスト種や文体が分類されるため、「D. 社会集団」と一部重なる¹⁷⁾。「G. 個人の帰属意識」は、視点が異なるだけで、扱われる言語変種はその他のカテゴリーと重なる。たとえば、発話者が「男性としての立場」から発言しようとして〈男ことば〉（「A. 性差」）を使う場合や、同じ広島出身の人物に対して同郷意識から広島弁（「E. 地域」）で話しかける場合などは、それらの言語変種がこのカテゴリーにも分類される¹⁸⁾。

また、現実社会における会話を対象とした定延 (2020) は、特定の言葉遣いによって「発動」する「キャラクタ」を、共通語を使用する言語圏に「昔からいる住人のタイプ」(定延 2020 : 219) である「在来」タイプ (女性や老人) と、それ以外の「外来」タイプ (平安貴族や宇宙人) の 2 種類に分類し、「在来」タイプの存在は、日本語以外の言語にはあまり期待できないとしている¹⁹⁾。たしかに、ドイツ語圏でも、言語変種が上述のように細かく分類され、認識されているため、「在来」タイプの多くは存在している可能性がある。ただし、これらはいくまでも研究者間での認識であり、言語共同体全体で共有された言語意識ではないため、これらの言語変種の

多くは役割語度が低いかもしれない。その一方で、専門家以外にも言語意識が共有されており役割語度が高いと考えられる言語変種としては、Langenscheidt 社が出しているユーモア辞書シリーズで扱われているものが挙げられる。これは、「〇〇に典型的な言葉遣い」と「標準ドイツ語」を併記したもので、たとえば〈若者ことば〉、〈男ことば〉、〈上司ことば〉、〈教師ことば〉、〈サッカーことば〉などの辞書が刊行されている²⁰⁾。

役割語研究にとって興味深いのは、Löffler (2010) が、使用期間ごとに言語変種を「時期的な (transitorisch) 変種」、「一時的な (temporär) 変種」、「慣習的な (habituell) 変種」に分類している点ではないだろうか。「時期的な変種」は、発話者が人生の特定の時期にだけ使用する変種であり、〈若者ことば〉や (移民などがドイツへの移住直後に使用する) ピジン・ドイツ語などがこれにあたる。「一時的な変種」は、特定の状況においてのみ使用される変種であり、軍人として勤務しているときのみ使用する〈軍隊語〉や趣味のサークルで集まったときにだけ使用するジャルゴンなどが挙げられる。「慣習的な変種」は、その変種を使用する集団が長期にわたって維持され、恒常的に使用されつづけている変種であり、〈女ことば〉および〈男ことば〉や、特定の専門分野や職業、社会階層においてのみ使用される言語変種があたる²¹⁾。持続性に注目したこれらのカテゴリーは、役割語研究にもそのまま応用できる。金水 (2011) が役割語の分類にさいして挙げた「ずらし、臨時的キャラクタ」(金水 2011 : 14) は、別の言語変種を用いた会話に差しはさまれる変種であるため、「一時的な変種」よりもさらに一時的な変種といえるだろう²²⁾。

役割語に関する先行研究では、役割語が機能する空間である言語共同体として、日本語圏や英語圏のように比較的大規模なものが想定されているようである。しかし、役割語の機能はいくまでも言語意識に依拠するものであるため、役割語研究、とりわけ役割語度の考察にさいし

ては、可能であれば、研究対象となる言語共同体を、世代や教育レベル、言語に関する習慣(読書や映画鑑賞など)に基づいてより狭く設定することが望ましい²³⁾。本研究に関していえば、とりわけE5でヨーダが初登場した時点でまるで予備知識を持たずに〈ヨーダ語〉に接した世代と、E1公開以降、ヨーダの人物像が確立し広く知られてから〈ヨーダ語〉に接した世代とでは、役割語の基盤となる言語意識に差があるだろうし、とりわけ〈宇宙人語〉に関しては、SF作品にどれだけ接しているかによって言語意識に大きな差が出てくると思われる。

3. ヨーダの人物像

スター・ウォーズ公式サイトによれば、ヨーダは以下のようなキャラクターである。

どのジェダイよりも強いフォースとのつながりを持つ伝説のジェダイ・マスターであり、ジェダイ評議会のグランド・マスター。体は小さいが、きわめて強力で思慮深く、800年ものあいだジェダイを訓練してきた。クローン大戦とルーク・スカイウォーカーの指導に重大な役割を果たした。(スター・ウォーズ公式サイト)

より細かくみると、E1～E3ではジェダイ最高評議会の中心人物であり政治的な影響力をもつ人物として登場する一方で、E5～E6のヨーダは世俗社会とは隔絶した惑星ダゴバに住む隠者として登場する²⁴⁾。

ヨーダは、第1作目であるE4の作中時間より896年まえに生まれたとされており、作中の時系列では初登場となるE1の時点でおよそ860歳だったことになるうえ、視聴者が感情移入すべき物語の主人公であるアナキンおよびルーク・スカイウォーカーの視点からみれば、自分の親よりも古い世代に属するため、いずれの作品でも「老人」とみなすことができるだろう²⁵⁾。また、作中の時系列では、最初期から主人公が所属する集団の中心的存在であり、典型

的な「メンター」、つまり主人公を指導し、主人公に援助をする役割を演じている。メンターは、主人公・準主人公に次いで重要なキャラクターであるが、主人公ほど内面描写はされず、「言葉の面では、典型的な役割語(標準語を含む)が用いられる場合が多いが、一方で、通常の役割語からずらしたり、重ねたり、あるいはまったくそれまでに例のないユニークな話し方をさせる場合もある」(金水2017:246)²⁶⁾とされている。

メンター役という視点でみたときに興味深いのは、映画第2作(E5)の制作にあたり、第1作でメンター役だったオビ=ワン・ケノービに代わるキャラクターとしてヨーダが造形されたため、第1作の単調な繰り返しにならないよう、明確にオビ=ワン・ケノービと異なる人物像が求められた点である。この点について、E5の原案と製作総指揮を務めたジョージ・ルーカスは、以下のように述べている。

ジェダイになる方法は、本来ならオビ=ワン・ケノービがルークに教えるべきだったんだけど、残念ながら彼を殺してしまったので、ヨーダを生み出す必要があったのです。オビ=ワン・ケノービの繰り返しをするつもりは、私にはありませんでした。なにか違うことをしたかったのです。彼[ヨーダ]は、ジェダイになる方法をルークに伝えるだけでいい。つまり、たっぷり話すだけです。これじゃあ、きつとすぐく退屈になると思って、私は「12歳の子でも観たくなるようなヤツが必要だぞ」と言ったんですよ。私は彼を小さくし、愉快地、そして赤ちゃんみたいにしました。(Duncan (Hg.) 2020: 192)

この発言からは、ヨーダは外見も性格も、メンター役としての典型例からずらされていたことが分かる。もっとも、その後、人物像を造形していく過程で、じょじょに老人のイメージが強くなっている²⁷⁾。

メンターとしての前任者であるオビ=ワン・ケノービとの重複をあえて避けている点については、「ヨータは、とぼけた老齡の狂人のように描かれて登場する。オビ=ワンのしたような憂いを漂わせる登場とは間逆である」(東2012: 75)という指摘もある。たしかに、ヨータと同じ作品に主人公あるいはメンターとして登場するジェダイは、その大部分が、特殊メイクを施されておらず標準英語を話すコーカソイド系の男性によって演じられており²⁸⁾、「中国の仙人」(東2012: 31)のイメージが採り入れられたヨータは外見的にも(後述するように)言語的にも「ずらされた」「ユニークな」キャラクターになっている。

4. 〈老人語〉と〈宇宙人語〉

ヨータの言葉遣いが、役割語として機能していると仮定した場合、それはどのようなカテゴリーに分類できるだろうか。ここでは、その年齢設定から「老人を想起させる言葉遣い」と、彼の言葉遣いを「まさに地球外のもの」(Levshina 2020.10.5)とする上述の評価から「宇宙人を想起させる言葉遣い」を検討してみたい。

4. 1. 〈老人語〉

日本語の〈老人語〉は、江戸時代後期の江戸における上方系方言と江戸語との対立から発生したと考えられている²⁹⁾。一方、ドイツ語の〈老人語 (Seniorensprache)〉も、長らく、方言学の観点から注目されてきた。なぜなら、現代では、成人は職業生活を通じて地理的にも言語的にも多くの変化を経験し、さまざまな言語変種をスムーズに使いこなせるようになるのが一般的であり、その可動性こそが〈大人ことば (Sprache der Erwachsenen)〉の特徴であるが、高齢者になると再び「基礎となる方言 (Grundmundart)」を使用する傾向が強くなるからである。役割語としても、細川 (2011, 2017) で指摘したように、ドイツ語圏では、主人公の話す〈標準語〉との対比において、特定の地域方言が「古い世代に属する人物」を想起させる役割語として使用され

ている³⁰⁾。

しかし、地域方言は「無教養」や「古臭い」という否定的な人物像を想起させる側面もあり、またその語彙は、「おもに農業や手工業、家庭的、私的な領域で用いるためのものである。そのため、地域方言はそれ以外の領域(専門領域、学術、文化的あるいは公的・政治的な事柄)にはあまり向いていない」(Löffler 2010: 142)とされている。したがって、この点では〈田舎ことば〉との区分が明確ではなく、日本語における〈老人語〉のように、〈博士語〉と共通の起源を持ち、「教養ある老人」を想起させることは難しい³¹⁾。この点から注目されるのが、「言語における非同時代性と時代標識」(Cherubim 2015: 252)である。現代の自然言語は、原則的に歴史の変遷を経たうえで存在しているため、「非同時代的な」特徴をもつ表現を含んでいる。このような特徴は方言に多く残されているが、標準語にもみられる。たとえば、名詞の格変化 (*in diesem Sinne* [この意味において]) や場所を表す前置詞の用法 (*die Universität zu Köln* [ケルン大学]) などがそうである³²⁾。このような「時代標識」を利用すれば、「古語法 (Archaisierung)」(Cherubim 2015: 266) によってより古い時代を想起させる言語変種を新たに生み出すことが可能になる。これはつまり、より古い時代の標識がついた表現や構文、言語行為を意図的に集中運用する手法であり、Cherubim (2015) によれば文学作品においては中世以降さまざまな形でみられ、今日では日常語にもみられるという。たとえば、文字言語においては、フラクトゥールや旧正書法で書かれた文章を目にしたことがあれば、第二次世界大戦前や1998年以前の時代と結びついた文字や綴りによって「古いことば」を表現できるようになる³³⁾、音声言語においては、より古い世代との日常会話において高齢者が口にした語句(とくに慣用語や間投詞など)を覚えることで、若者が古い時代標識のついた語句を話すことができる³⁴⁾。とりわけ、ドイツ語圏においては、19世紀以降、安価な文庫本の普及や国語教育を

つうじて、現在にいたるまで(専門的な解説付きで)古典文学が読み継がれており、そこで用いられている言語は、「より古い時代のことば」と認識された言語変種として世代を越えて共有されている³⁵⁾。こうした言語意識に基づいた「古語法」によって、ヨードのような「教養ある老人」というアイデンティティと結びついた言語変種を生み出すことも可能だろう。

4. 2. 〈宇宙人語〉

スター・ウォーズの劇中では、「はるか彼方の銀河系」の共通語「ベーシック」(を地球の視聴者向けに翻訳したもの)として、おもに標準英語が話されているが、翻訳能力に優れたC-3POの公式設定によれば、この作中世界には600万以上もの言語が存在しており、準主人公といえるチューバッカの話すウーキー語やイウォーク族の話すイウォーキーズ語、ジャバ・ザ・ハットの支配地域における共通語で使用頻度の高いハット語などを耳にすることができる。ウーキー族もイウォーク族も、地球人以外の知的生命体という意味ではたしかに「宇宙人」であるが、彼らの言語は視聴者には理解できないため、「宇宙人を想起させる言葉遣い」ではなく「異言語」である³⁶⁾。ドイツ語圏には、地球人にも理解可能かもしれない宇宙人の言語として、スター・トレック・シリーズに登場するクリンゴン語がある。この人工言語は、北米インディアンの言語を研究していたマーク・オクランド(Marc Okrand)によって語彙や文法が創造・整備されており、ドイツ語圏でも入門書や辞書が出版されるなど、知名度が高い³⁷⁾。しかし、これも、ハット語と同様にドイツ語とは別の言語であって、「宇宙人」を想起させるドイツ語ではない。

その一方で、日本語圏では、〈宇宙人語〉がよく知られている。この言語変種について、金水(2014a)は「例えば「ワレワレハ宇宙人ダ」と、抑揚のない機械的な音声で言えば〈宇宙人語〉であるが、宇宙人の話し方は現実には存在せず、フィクションの中で作られたものである」

(金水2014a:5)とし、この音声的な特徴以外には、終助詞や感動詞をほとんど使用せず、語用論的な含みを持たないなどの特徴が指摘されている³⁸⁾。この〈宇宙人語〉は、『地球防衛軍』(本多猪四郎・円谷英二,1957)において、惑星ミステロイドから来日したミステリアンの統領が話した日本語に由来するとされているが³⁹⁾、作中で聞こえるのは、日本人との意思疎通のために「翻訳機を通した声」(別冊映画秘宝編2016:37)にすぎず、宇宙人の本来の発話ではない⁴⁰⁾。そのことは、この〈宇宙人語〉と〈ロボット語〉がきわめて近いことによっても裏づけられる⁴¹⁾。したがって、〈宇宙人語〉はたしかに日本語話者に宇宙人を想起させるが、しかし、ヨードのように地球人にも分かる言語を肉声で聞き手に伝えている場合には、この〈宇宙人語〉の使用はふさわしくない。

地球の言語を口頭発話で使用しても「宇宙人」を想起させる表現として、日独ともに広く認識されていると思われるのが、『E. T.』(スティーヴン・スピルバーグ,1982)において、地球にとり残された地球外生命体が発する“E. T. phone home.”(E. T. でんわおうち)形式の言葉遣いである⁴²⁾。この言葉遣いは、宇宙人だけでなく非母語話者であれば地球人によっても使用されているピジンであり、「異人らしい」発話を表現するための役割語としても用いられてきたが、「愛嬌」や「滑稽」といったイメージを伴っている⁴³⁾。上述したように、ヨードはメンター役でありながら、シリーズの製作経緯から、典型例からは「ずらされた」「ユニークな」人物像となっている。そのため、彼が『E. T.』の地球外生命体のようにピジンを用いて「宇宙人らしく」話し、その結果として本来であればメンター役にはふさわしくない「愛嬌」や「滑稽」といったイメージを視聴者に抱かれたとしても、「愉快」で「赤ちゃんみたい」なキャラクターを求めている製作者の意に適っているといえる。

その一方で、このピジンの特徴として、ピジン独特の表現や母語における表現が混ざることが指摘されており、そのような表現を流暢な発

話に適度に取り入れることによって、滑稽ではない宇宙人の言葉遣いを生み出すことも可能である。たとえば、前述の『地球防衛軍』でミステリアンの統領を演じた土屋嘉男は、『怪獣大戦争』（本多猪四郎・円谷英二、1965）でX星人の統制官を演じたさい、人工言語であるX星の言語だけでなく日本語も話しているが、固有名詞を用いず、また、手話のような「フィンガーサイン」と口頭発話を併用することで、地球外の言語を母語とし、地球とは異なるコミュニケーション形式をもつ存在を表現している⁴⁴⁾。

この他にも、たんに「宇宙人らしさ」と結びつけた語句を流暢に話すことで、「愛嬌」や「滑稽」といったイメージを伴わずに宇宙人を想起させることもできるだろう。たとえば、前述の『地球防衛軍』では、連体修飾語「地球の」を多用することで、発話者が「地球外の」存在であることを想起させる方法がみられる（「地球のみなさん」「地球の科学者であるみなさん」「我々は地球の石器時代にすでに」など⁴⁵⁾）。また、SF作品などで「宇宙人の発話」として多用された表現によって宇宙人を想起させることも可能であり、その一例としては英語圏における“Take me to your leader.”（指導者に会せてほしい）がある⁴⁶⁾。

Ⅲ 〈ヨード語〉とその日独訳

ドイツ語圏では、〈ヨード語〉は、現生人類が使用する言語とは異なる文構造を持つ点が特徴とされているようである。ドイツを代表する雑誌『デア・シュピーゲル (Der Spiegel)』（オンライン版）は、言語の起源を研究する複数の言語学者の成果を紹介する記事に、「文構造の発展——ヨードのようにかつての人類は話していた」（Spiegel 2011.10.13）という見出しをつけ、OSV型は「映画スター・ウォーズ・シリーズのジェダイ・マスターであるヨードによって知られている」（ebd.）と断じている。しかし、記事を読むと、2135もの言語を対象とした研究の結果、SOV型の言語がより古い形を残していると

結論づけられており、OSV型はとくにまれな例とされている⁴⁷⁾。つまり、この記事の見出しは、読者の興味を引くために、わざわざまれなケースにすぎない〈ヨード語〉の語順を持ち出したのである。これは、〈ヨード語〉の特徴として、その語順が広く知られていることの傍証といえる。

1. 〈ヨード語〉の言語構造的特徴

〈ヨード語〉の特徴を統計的に分析した Levshina (2019) は、現生人類が使用する言語の多くにみられる、聞き手や読み手の理解をより容易にするための統語構造的な特徴が、〈ヨード語〉にはみられないことを根拠として、〈ヨード語〉を「宇宙人らしい」言語とみなしている。Levshina (2019) が考察した人類が使用する言語の特徴は、以下の3点である。(1) 主語が目的語よりも前に置かれる (SVO型やSOV型)、(2) 依存関係にある語の距離を短くする、(3) 動詞が節の最後に置かれる。本論では、このうち日本語との比較が容易な(1)と(3)を取りあげる。また、調査対象となったのは、ヨードの発話のうち、一語文など語順の考察に適さない発話をのぞいた約2,000語である。ただし、Levshina (2019) は、ヨードの発話を、映画ではなくデータベース“Internet Movie Scripts Database”に基づいて分析しているため、そのサンプルには、映画本編には登場しない発話も含まれている。そのような発話例については、Levshina (2019) における該当箇所を記した⁴⁸⁾。

Levshina (2019) によれば、サンプルを調査した結果、標準的な語順であるSVOが頻繁にみられた。ヨードの発話のうち、標準的ではない語順による発話を標準的な語順に書き直した場合、書き直された語数が全体に占める割合は、E5～E6とE1～E3との間で大きく分かれており、明らかに後者の方が「ヨードらしい」発話が増えている (E5: 25%, E6: 36.1%, E1: 56.3%, E2: 51.2%, E3: 67.4%)。この点について、Levshina (2019) は、E1制作時以降、ヨードの人物像が言語的にも確立していったことを

指摘している。いわば、統語構造を〈標準語〉から(さらに)逸脱させることで役割語度を高め、「ヨードらしさ」と結びついた〈ヨード語〉が確立していったのである⁴⁹⁾。

1. 1. 主語と目的語の位置の揺れ

「ヨードらしい」語順に関しては、上述した『シュピーゲル』でも指摘されていた「不定詞・目的格・斜格—主格—動詞・助動詞・コプラ」(Levshina 2019: 36)という、〈ヨード語〉に「典型的」とされている語順がたしかにみられる(引用1)。この語順において、不定詞が文法項を伴う場合には、一般的には不定詞の後に置かれるが(引用2)、前に置かれるケースもまれにみられる(引用3)。

- (1) A certainty it is. (E2. Levshina 2019: 36)
(確かなことそれは)⁵⁰⁾
- (2) Save them, we must. (E3. Ebd.)
(彼らを救う我々は必要がある)
- (3) Master Kenobi, our spies contact, you must, [...]. (E3. Levshina 2019: 37)
(マスター・ケノービ, 我らのスパイに連絡するあなたは必要がある)

主語と定動詞の位置に関しては、主語が前に置かれるのが一般的であるが(引用4)、逆のケースもある(引用5)。その一方で、主語のあとに助動詞と不定詞が置かれるのは、稀である

(引用6)。

- (4) Earned it, I have. (E6)
(それを得た私は)
- (5) Heard from no one, have we. (E3)
(誰かについて聞くしていない私たちは)
- (6) The outlying systems, you must sweep. (E3)
(外縁をあなたは徹底的に探す必要がある)

Levshina (2019) が強調しているのは、標準的なSVOとこうした「ヨードらしい」OSVとが混在している点である。標準英語においても強調のために目的語を文頭に置くことは許容されているが、〈ヨード語〉では同様の内容の文であるにもかかわらず、SVOになったりOSVになったりしている。サンプルのうち、主語と目的語が明示されている節から、従属節および不定詞節、疑問文を除いたものを対象に主語と目的語の位置関係を分析した結果を表1に示した。この結果について、Levshina (2019) はとくに、E5でヨードが初登場したさいには揺れが激しかったことを指摘している。E5以外の作品では、標準的な語順とは逆に、目的語が主語の前に置かれる方が優勢である⁵¹⁾。

名詞や冠詞の格変化によって格を表すドイツ語や格助詞によって格を表す日本語では、語順を固定しなくても文意が正確に伝わるため、こ

表1：主語と目的語の位置の揺れ

	SO 順の頻度	OS 順の頻度	OS 順が全体に占める割合 (%)
E5	18	15	45.5
E6	3	6	66.7
E1	2	7	77.8
E2	3	8	72.7
E3	7	18	72
計	33	54	62.1

(Levshina 2019: table 1 に基づき作成)

表2：オリジナルと標準英語化した〈ヨータ語〉における動詞の位置

文法項数	0	1	2
オリジナル	58 (37.9%)	72 (47.1%)	23 (15%)
標準英語	21 (13.7%)	132 (86.3%)	0 (0%)

(Levshina 2019: table 3)

のような多様性が許容されている。とりわけ日本語では、「典型的」とされる〈ヨータ語〉の語順と同様に動詞が文末に置かれるため、前述の引用6のように、ヨータの発話どおりの語順で訳した場合、まるで違和感のない日本語になることがある。その一方で英語では、格変化に乏しく、おもに語順によって名詞の格が表されているため、主格と目的格の位置関係が固定されている必要がある。したがって、英語の言語変種である〈ヨータ語〉にこのような揺れがみられることは、本来であれば会話相手の理解を妨げるものであり、それでも円滑に高度なコミュニケーションがおこなえていることは、「ヨータ語がまさしく地球外のものである」(Levshina 2019: 40) ことの証左といえるだろう⁵²⁾。金田一(2010)は、〈宇宙人語〉について「宇宙人の声、というのは誰も聞いたことがないので、誰も聞いたことのない声でなければならない」(金田一2010: 43)と述べているが、〈ヨータ語〉がもつこの(地球の言語と比較した際の)理不尽さは、たしかに〈宇宙人語〉としては適切とみなせる。

1. 2. 動詞の位置

英語やドイツ語のようなSVO型の言語には、動詞と主語、目的語との距離を短くできるという利点があるが、その一方で、日本語のように動詞を後置するSOV型の言語も多くある。それは、目に見える具体的なものではなく行動や状態を表す動詞は認識し習得することが困難であるため、この語順のほうが言語を習得し運用するのに効率的であるためと考えられている。この観点からみれば、「ヨータらしい」とされるOSVという語順は、標準的な英語の語順よりも効率が良いといえるかもしれないが、前述の引

用2および3に明らかなように、定動詞に従属する不定詞や、不定詞に従属する文法項が定動詞から遠くはなれた文頭に置かれるのも〈ヨータ語〉の特徴であり、まったく効率的な語順とは思えない⁵³⁾。

動詞の位置に関して、Levshina (2019)は、ヨータの発話とヨータの発話を標準的な語順に書き直した文の主文を対象とし、助動詞およびコブラを除く動詞を、それよりも前に置かれた主語および目的語の数ごとに算出している。その結果が表2である。

標準的語順に書き直された文では、当然のことながら、動詞に主語のみが先行するケースがほとんどである(SVOあるいはSV)。それに対し、オリジナルの〈ヨータ語〉では、書き直された文には一切みられない文法項数2というケースが15%を占めていることが目立ち、それはいずれもOSVのパターンであった(引用7, 8)。

- (7) Grave danger I fear in his training.
(E1)
(重大な危険を私は恐れる彼の修行をつうじて)
- (8) I hear a new apprentice, you have.
(E3)
(私は耳にした、新しい弟子をあなたは迎えた)

しかし、使用頻度の点からみれば、この語順は代表的とはいえず、むしろオリジナルの〈ヨータ語〉の方が、標準的な語順よりも、動詞に先行する文法項数0のパターンを好んで用いているのである(37.9%対13.7%)⁵⁴⁾。この調査結果からは、標準英語の語順に親しんだ読み手や聞き手にとっては目立つ特徴ではあるが、使

用頻度の点からみればそもそも OSV という語順を〈ヨーダ語〉の典型例とする主張自体が誤りであり、したがって、動詞を後置する効率的な言語変種という指摘もあたらないことが分かる。

1. 3. まとめ

Levshina (2019) の研究によって明らかになったのは、以下の3点である。まず、〈ヨーダ語〉は標準英語の語順を、一貫性なく変えたものであり、その一貫性のなさがひとつの特徴になっている。次に、標準英語からの逸脱の程度は初期の2作 (E5 ~ E6) とそれ以降の3作 (E1 ~ E3) で大きく異なっており、製作年が新しいほど逸脱が激しくなる傾向がみられる。さらに、〈ヨーダ語〉にみられる逸脱は、コミュニケーションを円滑におこなううえで問題を生じるであろう逸脱であり、効率的に会話をおこなうためのものではない。

作中の時系列に沿って、〈ヨーダ語〉を役割語としてみた場合、これを〈老人語〉の一種と解釈することは難しいように思われる。もし、ヨーダの母語(「基礎となる方言」)が一貫性のない自由な語順という特徴を持っており、老いて隠遁生活を送るようになってから (E5 ~ E6)、「ベーシック」を話す他者とのコミュニケーションが断絶されたため、みずからの「基礎となる方言」の影響が顕著になったのであれば、それは〈老人語〉とみなせただろう。その場合、彼にとっての「ベーシック」は、ジェダイ最高評議会のメンバーとして活動した時期にだけに用いた「時期的な変種」(一種の〈大人ことば〉)、あるいは、権力者としての立場から発言していたときだけの「一時的な変種」(一種の〈上司ことば〉)だったことになる。しかし、実際には、そのような立場から大勢の「ベーシック」話者と交際していた時期 (E1 ~ E3) のほうが、頻繁に〈ヨーダ語〉を話しているのである⁵⁵⁾。

結局のところ、〈ヨーダ語〉は、その極端に小さい体格や緑色という皮膚の色と同様に、典型的なメンター役から——とりわけ標準英語に慣

れ親しんだ視聴者にとって——「ずらされた」[ユニークな]言語変種として、ヨーダの人物像を確立するために利用されているにすぎないのだろう。それは、ピジンを用いた〈異人ことば〉の一種であり、『E. T.』形式の〈宇宙人語〉である。上述したように、この形式を用いることで、発話者には「異言語圏に属する人物」というイメージだけでなく、「愛嬌」や「滑稽」というイメージも付加されるが、ヨーダにはもともと「愉快」な「赤ちゃんみたい」であることが求められていた点からみれば、その人物像に合った役割語といえる。制作時期という視点からみれば、ヨーダはこの言語変種を、「ヨーダ」というキャラクターであるかぎりは「慣習的な変種」として用いつづけているが、E5 制作時にはまだその設定が固まっておらず、時を経るにつれて徐々に確立されていった。こうした変遷を、作中の時系列に沿って説明することは困難だが、しいていうならば、初登場時はおもに若いルークと会話をしているため、相手が未熟でそのうえ軽率な人物であるとみて、とくに丁寧な話そうと努め、意図的に〈標準語〉を多用したのかもしれない。そうであれば、ヨーダが使用する言語変種の変遷は、社会シンボル機能ではなく語用論的なレベルに関する言語意識という観点から分析する必要がある⁵⁶⁾。

2. 〈ヨーダ語〉の翻訳

以下に、〈ヨーダ語〉の日独訳をみていく。考察対象としたのは、Levshina (2019) で非標準的な語順の例としてあげられたヨーダの発話のうち、映画本編で確認できるものすべてである。日本語訳は、E1 ~ E3 はウォルト・ディズニー・ジャパンの「スター・ウォーズ ブリクエル・トリロジー DVD-BOX」(初回生産版)、E5 ~ E6 は20世紀フォックス・ホーム・エンターテイメント・ジャパンの「スター・ウォーズ トリロジー DVD-BOX」、ドイツ語訳は、Walt Disney の“Star Wars 1-9. Die Skywalker Saga”の吹き替えを書き起こして用いた。音声言語のため発話や文の終わりが不明

瞭という欠点があるにもかかわらず吹き替えを用いたのは、字幕の場合、おそらくは文字数の制約から日本語訳では大胆な意訳が頻繁にみられたからである。

2. 1. 役割語的要素が日独訳いずれにもみられるケース

〈ヨータ語〉訳にみられる役割語的要素は、日独で明確に二分されている。すなわち、英語に比較的近い文構造をもつドイツ語訳が、原文がもつ特殊な語順という特徴をなるべく伝えようとしており、「まさに地球外のもの」(Levshina 2020.10.5)としての〈ヨータ語〉、一種の〈宇宙人語〉であるのに対し、日本語訳は、日本語と英語の文構造の相違からか語順の特徴を伝えることを放棄し、典型的な〈老人語〉を用いているのである。

以下の例は、いずれも原文において、標準的な語順であれば定動詞のあとに置かれる文の構成要素が文頭に置かれているケースである。ドイツ語訳はそれを反映して前前域 (Vorvorfeld) に文の構成要素を置くという非標準的な語順になっているが、日本語訳は標準的な語順である (引用 9)。日本語訳では、主語を明示しない場合が多く (引用 10, 11)、原文とは異なる語を主語にしているケースもみられ (引用 12)、原文の特徴的な語順を伝えようとする傾向は一切みられない。

その一方で、ドイツ語訳には非同時代的な時代標識はみられないが、日本語訳では、終助詞「じゃ」がしばしば用いられ、「でな」や「ねば」といった非同時代的とみなせる連語もみられる。ただし、スター・ウォーズの日本語訳は当初、ダース・ベイダーが「御意」と答えるなど「時代がかった表現を使っていた」(林/Duke 2002: 198)とされているが、今回調査した日本語訳では、〈老人語〉をのぞけばとくにそのような時代標識のついた表現はみられなかった⁵⁷⁾。

- (9) Hard to see, the dark side is. (E1)
(見つけることは難しい暗黒面は)

日：暗黒面は見づらいでな。

独：Schwer zu erkennen, die Dunkle Seite ist.

(見つけることは難しい暗黒面は)

- (10) Use your feeling you must. (E2)⁵⁸⁾

(感覚を使うおまえたちは必要がある)

日：感覚を研ぎすますのじゃ。

独：Eure Sinne nutzen ihr müsst.

(感覚を使うおまえたちは必要がある)

- (11) Rest I need. (E6)

(休息を私は必要とする)

日：休まねば。

独：Ruhe ich jetzt brauche.

(休息を私はいま必要とする)

- (12 [5]) Heard from no one, have we. (E3)

日：誰からも連絡がないんじゃ。

独：Gehört von niemandem wir haben.

(誰かについて聞くしていない私たちは)

語順の分析にさいしては、音声言語ならではの問題もみられた。以下の例は、Levshina (2019) において、〈ヨータ語〉では定動詞よりも前に複数の文法項が置かれる文が多い例として挙げられた発話である。ドイツ語訳は、“einen”の前に *dass* の一語が入るだけでそれ以降が従属文となり、その結果、定動詞後置が標準的な語順となり、定動詞の前に置かれる文法項の数も標準的となる。実際の発話状況では、*dass* を聞き落としたのだと聞き手が解釈し、この発話を標準的な語順であるとみなす可能性も否定できない。なお、この発話では、ヨータは皇帝に対して17世紀ごろにすたれた *ihrzen* という時代標識のついた敬称を用いており、〈老人語〉とみなすこともできそうだが、ドイツ語版のスター・ウォーズ・シリーズでは発話者の年代を問わない「古語法」として *ihrzen* が多用されているため、(後述する引用 15 と同様に) ドイツ語話者がこの発言を「老人らしい」と認識することはないと思われる。おそらくは、前述した日本語の「御意」のように、ドイツ語圏では一種の〈時代劇ことば〉として認識されるだろう。

(13[8]) I hear an new apprentice, you have. (E3)

日：新しい弟子を迎えたそうじゃな。

独：Ich habe vernommen, [dass] einen neuen Schüler Ihr habt.

(私は耳にした, 新しい弟子を貴殿が迎えた[ことを])

2. 2. 役割語的要素が日本語訳にだけみられないケース

上述したように、〈ヨーダ語〉の日本語訳における役割語的要素は、もっぱら〈老人語〉の要素であった。分析対象である発話には、ほぼいずれかの要素がみられたが、引用14のように役割語度ゼロの訳文もみられた。原文における主語“I”が「わし」と訳されていれば〈老人語〉とみなせたのであるが、他の多くの日本語訳と同様に主語は訳されていない。その一方で、ドイツ語訳では原文と同様に目的語が前前域に置かれ、非標準的な語順になっているため、日本語訳のみヨーダらしさがみられないことになる。

(14[7]) Grave danger I fear in his training. (E1)

日：あの子に修行させるには抵抗がある。

独：Große Gefahr ich befürchte durch seine Ausbildung.

(重大な危険を私は恐れる彼の修行をつうじて)

また、議論の余地があると思われるのが、形容詞「よい」である。分析対象に含まれていた訳文は以下の2例であるが、いずれもジェダイ最高評議会のメンバーという立場からなにかを指示するさいの発話であり、〈老人語〉というよりは〈上司ことば〉や〈支配者ことば〉だと考えられる。これらも役割語であるが、〈老人語〉話者としてのヨーダとは別の、「臨時的キャラクタ」としての発話とみなす必要があるだろう。ドイツ語訳に関しては、引用15に *ihrzen* が用いられ〈時代劇ことば〉の要素がみられる点と、引用16

では原文とは異なり定動詞が文末に置かれているため、〈ヨーダ語〉の役割語度がより高くなっている点が興味深い。

(15[6]) The outlying systems, you must sweep. (E3)

日：銀河系の外縁を探すがよい。

独：Die äußeren Systeme durchsuchen Ihr müsst.

(外縁を徹底的に探す貴殿は必要がある)

(16) To his family, send him. (E3)

(彼の家族のところへ彼を送れ)

日：彼の家族のものがよい。

独：Zu seiner Familie du ihn schickst.

(彼の家族のところへ送るおまえが彼を)

また、このカテゴリーにおいても、音声言語を分析するさいの問題がみられた。以下の例では、原文では“Unexpected this is”（予期していなかったそれは）という節に“unfortunate”（悲しむべきこと）という語が付加されており、ドイツ語訳でも同様の文構造になっている。日本語訳は、「それは予期してなかった」に続いて「不幸なことじゃ」と発話しており、原文どおり1文とすれば、〈老人語〉といえる。しかし、これを「それは予期してなかった」と「[それは]不幸なことじゃ」という2文だとみなせば、“Unexpected this is”の箇所が含まれていた役割語的要素は、標準的な日本語に訳されて喪失したといえる。

(17) Unexpected this is, and unfortunate. (E6)

日：それは予期してなかった[.]不幸なことじゃ。

独：Unerwartet das ist und bedauerlich.

(予期していなかったそれは、そして、悲しむべきこと)

2. 3. 役割語的要素がドイツ語訳にだけみられないケース

このカテゴリーに含まれるのは、もっぱら、ドイツ語訳は標準的な語順に訳されている一方で、日本語訳には〈老人語〉が用いられているパターンである。明らかにこのカテゴリーに分類できる2例は、興味深いことに、いずれもヨータが初登場したE5における発話であった。いずれも、標準英語であれば動詞の後に置かれる補語や目的語が文頭に置かれるパターンであり、ドイツ語訳でもその語順を守っているが、英語とは違いドイツ語では前域にこれらの文法項を置くことが可能なため、〈ヨータ語〉的な要素は喪失している。この点に関しては、ヨータが登場した時点では〈ヨータ語〉の使用はまだ希少であったため、翻訳者が標準的なドイツ語への同化翻訳を図った可能性も指摘しうるだろう。

(18) Friends you have there. (E5)

(友人たちを持っているおまえはそこに)

日：友がおったのじゃろう。

独：Freunde hast du dort.

(友人たちをおまえはそこに持っている)

(19) Reckless is he. (E5)

(軽率彼は)

日：[だから言ったろう,] あの子はだめじゃと。

独：Leichtfertig ist er.

(彼は軽率)

また、次の例も、〈ヨータ語〉の使用頻度が比較的低かったE6における発話である。これは、ヨータが長年にわたる務めの末にようやく *verdienen* (手に入れる) という点を強調したかったと考えられる場面であるため、過去分詞“*verdient*”が文末ではなく前域に置かれるという語順も標準的なドイツ語から逸脱していないともいえる。とりわけ、引用18, 19とは違い、

原文では定動詞が文末に置かれているにもかかわらず、ドイツ語訳では第二位に置かれていることから、標準的な語順を守ろうとする翻訳者の意図が感じられる。

(20 [4]) Earned it, I have. (E6)

日：楽になれるわい。

独：Verdient habe ich das.

(得た私はそれを)

2. 4. 役割語的要素が日独訳いずれにもみられないケース

Levshina (2019) が典型的な〈ヨータ語〉の例としてあげた発話のみを考察したため、当然のことかもしれないが、ほぼすべての日独訳に役割語的要素がみられた。しかし、コブラのあとに主語が置かれる例としてあげられた以下の例のみには、例外的に、役割語的要素が訳文にみられなかった。

(21) Not ready for the burden were you. (E6)

(まだその重荷に対する準備ができていなかったおまえは)

日：その重荷にはたして耐えられるか。

独：[...] als noch nicht bereit für diese Bürde du warst.

(おまえがまだその重荷に対する準備ができていない時に)

他の用例とは異なり、この発話は、ドイツ語訳では従属文として訳されているため、定動詞が文末に置かれる標準的な語順になっている。また、日本語訳では〈老人語〉の要素となりうる人称代名詞が用いられておらず、役割語の重要な指標である終助詞には無標の「か」が用いられている。ドイツ語訳で原文どおり独立した(非標準的な語順の)一文として訳したり、日本語訳で「耐えられるか」の代わりに「耐えられるかのう」や「耐えられるじゃろうか」といった〈老人語〉を用いたりすることは容易であるため、

このようにまるで役割語的要素を含まない訳が揃ったことはとても希少だといえる。

IV おわりに

〈ヨード語〉はピジンの一種であり、主人公のメンター役でありながら「愛嬌」と「滑稽」というイメージを伴うヨードの、「ずらされた」人物像に合致した〈宇宙人語〉であった。そして、そのような言葉遣いをするキャラクターであるにもかかわらず、作中最強クラスのジェダイとして活躍するところに、ヨードの面白さがある。

しかし、この「地球外のもの」を想起させる言語変種は、英語の語順が文法的に大きな制約を受けているからこそ創造が可能なものであり、より自由な統語構造をもつ言語への翻訳は困難である。とりわけ、日本語では、英語やドイツ語ではきわめて重要な文の構成要素である主語がそもそも明示される必要がないため、その主語と目的語、動詞の位置関係が重要な要素である〈ヨード語〉の翻訳はより困難である。原文の主語を直訳し、それを日本語の語順としては不自然な位置に置くことで、本来の役割語的要素を翻訳可能であるが、あまりにも「ずらされた」側面が強調されてメンター役としての人物像が正しく伝わらない可能性や、それどころか、視聴者が発話内容を理解できなくなってしまう可能性さえある⁵⁹⁾。

そのため、ドイツ語訳では比較的〈ヨード語〉の特徴が示されているのに対し、日本語訳では〈ヨード語〉本来の特徴は訳されていない。その代わりに、「老人」という側面に焦点を当てており、ドイツ語訳が他のキャラクターも使用する〈時代劇ことば〉をヨードもしばしば使用するといどであるのに対して、日本語訳では〈老人語〉が多用されている。ヨードはたしかに老人であり、とりわけE6では高齢であることが強調されているが、その言葉遣い自体には本来、「老人」を想起させる社会シンボル機能はなかった。その一方で、日本語圏には、特徴的な言葉遣いをするこのキャラクターの人物像に合致し

た〈老人語〉という役割語の伝統があり、容易に訳文に利用できた。〈老人語〉は、当初、本来の役割語的要素が訳されていないことの穴埋めのために選択された可能性も否定できない。いずれにせよ、日本語版では、ヨードはその言葉遣いをつうじて「愛嬌のある宇宙人らしさ」ではなく「老人らしさ」が強調されることになった⁶⁰⁾。しかし、繰り返しになるが、この〈老人語〉は、本来の〈ヨード語〉とはまるで異なる社会シンボル機能を持っているのである。

〈ヨード語〉は、「遠い昔、はるか彼方の銀河系」から我々に、言語構造の異なる言語を翻訳すること、そして、翻訳に基づいてその言語が持っている社会シンボル機能を理解することの難しさを示してくれている。

注

- 1) 2019年夏に来日中のフランス人サッカー選手が、ホテルの従業員を撮影しつつ、日本人を侮辱したとされる。2021年7月にそのことが明るみに出たさい、この選手の発言をひろゆき氏が擁護しようとし、小島剛一氏からその解釈が「的外れもいいところ」(小島2021.7.7 [10])と指摘された。サッカーキング2021.7.4, デイリー新潮2021.8.6参照。
- 2) フランス人サッカー選手が日本人を侮辱したとされる発言のうち、「強度の侮蔑語・罵倒用語・悪罵用語」(小島2021.7.7 [10])である感動詞“putain”が、日本の報道では、翻訳を通じてそのような社会シンボル機能を喪失していた。この語が含まれる発話“*Oh putain la langue!*” (L'Équipe 2021.7.5 [6])は、筆者が目にした日本語の記事では、「『どんな後進国の言葉なんだ』[...]」などとも発言した」(サッカーキング2021.7.4)や「『何て言語だ』などからかう声」(時事通信ニュース2021.7.6)と訳されていた。前者の訳には「後進国」という否定的な表現が含まれているが、これは隣接する発話の内容を踏まえた意識であり、“putain”の訳とはいえない。むしろ、これらの記事は不特定多数の読者にむけて書かれたものであるため、罵倒表現を直訳できない(直訳すべきではない)という点にも留意が必要である。Vgl. L'Équipe 2021.7.5 [6]; 今井2021.7.12. なお、“putain”のような罵倒表現も、本論文で扱う役割語の指標となりうる。金田2011: 144参照。
- 3) Levshina (2019) にならない、台詞のみの登場作品はのぞいている。本論文では、以下、「エピソード」をEと略記する。これらの作品は、制作順と作

- 中の時系列が異なっているため、通時的な考察がおこなえるよう整理しておきたい。制作順では、ヨードの登場しない第1作がE4『新たなる希望』(1977, 作中の時系列ではE1開始時点から30年後)、以降、第2作E5『帝国の逆襲』(1980, 同33年後)、第3作E6『ジェダイの帰還』(1983, 同34年後)、第4作E1『ファントム・メナス』(1999)、第5作E2『クローンの攻撃』(2002, 同10年後)、第6作E3『シスの復讐』(2005, 同12年後)となっている。スター・ウォーズ公式サイト, 東2012: 2 参照。
- 4) 金水(2018)では、特定の(フィクションの)キャラクター特有の言語を「キャラクター言語」とし、特定の話者集団と結びつけた役割語と区別することが提案されている。この定義にしたがえば、本論で扱う言語変種はヨードというキャラクター特有のキャラクター言語であり役割語ではないことになる。しかし、本論では先行研究が豊富な旧来の定義にしたがい、役割語とキャラクター言語(および個人語 [Idiolekt]) とを分けないこととする。細川2011: 154, 金水2018: 64 以下参照。
 - 5) 文2018: 9 以下, 定延2020: 213 参照。
 - 6) Vgl. Eroms 2003: 137f.; 細川2017: 49; Hosokawa 2019: 2; 定延2020: 182.
 - 7) Vgl. Scharloth 2005: 12f.; 細川2011: 154 以下; Hosokawa 2019: 2f.
 - 8) Vgl. Löffler 2010: 117, 128f., 138f.
 - 9) たとえば、ツックマイヤーの『ケベニックの大尉』(1931)では、標準的な言語変種が「支配者」(Frisen 1986: 80)を想起させる言語変種として用いられている。金水2017: 245, 金水2018: 69, Hosokawa 2019: 4f. 参照。
 - 10) たとえば、中沢啓治の『広島カープ誕生物語』(DINO BOX, 2014)には、「わしはおまえが大好きじゃ」(中沢2014: 270)などの発話が見られる。
 - 11) 文2018: 11 以下参照。
 - 12) 文2018: 35 参照。なお、役割語度が高く翻訳が困難と考えられる〈侍ことば〉に関しては、英語圏では古語を用いた翻訳法が見られる。金田2011: 138 以下参照。
 - 13) 金水2014b: viii 以下参照。なお、辞典の項目、つまり役割語の指標としては、計121項目中、代名詞が28項目で最も多く、21項目の動詞、18項目の助詞がそれに続く。文2018: 13 参照。
 - 14) Löffler (2010)の分類には文字言語にしかみられない変種も多くふくまれているが、それらは、おもに口頭発話(を文章化したもの)を対象とする役割語の研究対象とは異なるものとして除外している。また、特定の発話状況(電話による会話や面接試験時の会話など)でのみみられる変種も除外している。Vgl. Löffler 2010: 79f.
 - 15) その一例として、各地から集会のために集まった修道士たちが、意思疎通をおこなうためにつくった〈修道士の交際語〉が挙げられている。Vgl. Löffler 2010: 124f.
 - 16) 定延(2011)でとりあげられた「スポーツアナ文法」は、指示的機能だけでなく働きかけ機能も重視した変種といえるかもしれない。Vgl. Löffler 2010: 94f.; 定延2011: 17.
 - 17) 「下層階級の下品で粗野な文体」や「上層階級の高尚で文学的な文体」などがその一例として挙げられており、教育レベルが高ければ社会集団内で期待される文体、あるいは忌避される文体を把握して使い分けることができるが、教育レベルが低ければ高尚な文体を使用することはできない、とされている。Vgl. Löffler 2010: 146f.
 - 18) Vgl. Löffler 2010: 150f.
 - 19) 定延(2020)は、特定の言葉遣いによって「発動」する「キャラクタ」を「発話キャラクタ」と呼んでいる。ここで引用した分類も、役割語の分類ではなく、「発話キャラクタ」の分類である。また、さらに、「在来」タイプを「品」「格」「性」「年」という4つの視点から分類している。この「在来」タイプは一般の発話でも冗談でも「発動」するのに対し、「外来」タイプは冗談としてしか「発動」されない。定延2020: 219 以下, 225 以下参照。
 - 20) Vgl. Langenscheidt.
 - 21) Vgl. Löffler 2010: 117f., 121f.
 - 22) たとえば、(標準語)でおこなっていた会話のなかに、権威づけのために〈博士ことば〉による発話を挿入するなど。金水2011: 14 参照。
 - 23) たとえば、冒頭で触れた“putain”のような罵倒表現が、大多数のフランス語話者に「下品な言葉」として認識されていたとしても、当事者であるサッカー選手のように、そうした言葉を面白がって多用している人物にとっては——フランス語母語話者であっても——そのような言葉遣いによって自分が「下品な人間」という人物像と結びつけられるとは思えないだろう。時事通信ニュース2021.7.6, 今井2021.8.15 参照。
 - 24) 東2012: 72, TSC1999: 50 以下, 矢地2002a: 74 参照。
 - 25) ヨードの種族はきわめて長命であり、E1には、同じ種族で、477歳という設定の「若い」ジェダイ・マスター、ヤドルも登場する。TSC1999: 51, 65, Duke 2002: 84, 87 参照。
 - 26) 金水2017: 243, 金水2018: 68 以下参照。なお、メンターとしてのヨードと主人公の関係は複雑で、E5においてルーク・スカイウォーカーに直接的な指導をおこなうだけでなく、ヨードの弟子であるドゥークー伯爵の指導を受けたクワイ＝ガン・ジンの弟子が、アナキンおよびルーク・スカイ

- ウォーカーの師匠であるオビ=ワン・ケノービという関係でもある。
- 27) 外見に関していえば、緑色の小さな人型生物という点は、グレイ型のイメージが普及するまでは欧米で一般的だったリトル・グリーン・マン型の宇宙人と共通している。また、老人のイメージとしては、アルバート・アインシュタインのイメージも取り入れられたとされている。宮川2002: 10参照。
- 28) メンター役のオビ=ワン・ケノービは、E4～E6では60代半ばから後半のアレック・ギネスが、E1～E3では20代後半から30代半ばのユアン・マクレガーが演じている。なお、E4～E6の主人公ルークは一貫してマーク・ハミルが、E1～E3の主人公アナキンは、顔の見えない「ダース・ベイダー」としての出演時をのぞけば、ジェイク・ロイド(E1)、ヘイデン・クリステンセン(E2～E3)、セバスチャン・ショウ(E6)が演じている。
- 29) 金水2011: 11参照。
- 30) Vgl. Löffler 2010: 118; 細川2011: 153以下; 細川2017: 49以下。
- 31) Vgl. Mattheier 1991: 53; Löffler 2010: 142; 金水2011: 11参照。
- 32) Vgl. Cherubim 2015: 256f.
- 33) 日本語であれば、旧字体や旧仮名遣いを用いて同様の古語法がおこなえる。
- 34) Cherubim (2015)によれば、感情表現に関する語句に関しては、高齢者がみずからの子供時代に耳にしたものを思い出して用いることがしばしばあるため、そのような表現は世代を越えて記憶されていく。Vgl. Cherubim 2015: 252f., 264.
- 35) Vgl. Cherubim 2015: 264f.
- 36) 発話内容を視聴者が理解する必要がある場合には、標準英語の字幕がついたり、会話相手の返答によって発話内容が分かるように工夫されている。矢地2002b: 98, スター・ウォーズ公式サイト参照。
- 37) Vgl. Litaer 2017: 8f, 11.
- 38) 金水2011: 14, 金水2014b: xii参照。
- 39) ただし、一人称「ワレワレ」を用いる宇宙人は戦前の作品からみられ、電子的な処理を伴う音声を用いる宇宙人も『地球防衛軍』と同年公開の『鋼鉄の巨人 怪星人の魔城』にみられる。依田2014: 212以下, 別冊映画秘宝編2016: 37参照。
- 40) ミステリアンの言語は、劇中では聞きとれないほど小さな声で話されている。別冊映画秘宝編2016:37参照。なお、この〈宇宙人語〉に関して、『ゴジラ対メカゴジラ』(福田純・中野昭慶, 1974)および『メカゴジラの逆襲』(本多猪四郎・中野昭慶, 1975)で、ブラックホール第三惑星人を演じた陸五朗は、「宇宙人の台詞といいますとね、抑揚を全部殺して平坦に喋るといいうのもありますよね。でもそれは、下手をするとバカに聞こえるんですよ」(友井編2019:92)と、否定的な見解を述べている。
- 41) 金水2011: 14, 金水2014b: xii参照。
- 42) なお、『E. T.』劇中でも触れられているように、この作品に登場する地球外生命体とヨーダの外見はよく似ており、また、後述するように標準的でない英語を話す点も共通している。
- 43) ピジンの特徴としては、語彙の減少、形態の単純化、統語構造の単純化、外国語あるいはピジン独特の語彙が混じる、母語の影響で音声に訛りが生じる、冠詞や語形変化の語尾の欠落や単純化、動詞の格支配の単純化、代名詞による主語がない、動詞の語形変化の制約(不定詞、分詞を繰り返すつかう)、同じ間違った形の繰り返しなどがみられる。Löffler 2010: 125f., 金水2011: 12以下, 依田2011: 214以下, 233以下, 金水2014a: 35以下, 217参照。
- 44) X星人の母語は、土屋嘉男が芥川龍之介の創造した「河童の言語」などを混ぜてつくった人工言語である。別冊映画秘宝編2016: 37, 42参照。
- 45) ただし、すでに述べたように、ミステリアンの統領に関しては翻訳機を通した音声のみが聞こえる。別冊映画秘宝編2016: 37参照。
- 46) 清水1988: 102以下参照。
- 47) Vgl. Spiegel 2011.10.13.
- 48) Vgl. Levshina 2019: 35f.
- 49) 統語構造に特徴をもつ役割語としては、〈ヨーダ語〉のほかにも、幼児語がある(たとえば、「Papa Auto fahren.」[パパのるくるま])。また、スポーツ実況特有の言葉遣いも、こうした役割語の一種と言えるかもしれない(たとえば、「初球、外角高め、ボール、振りかぶって第2球、打った、大きい、見上げる、入った!」)。定延2011: 17, 21, 金田2011: 136以下, Levshina 2019: 37f.; Kindersprache参照。
- 50) 〈ヨーダ語〉の原文およびドイツ語訳には筆者が試訳をつけたが、元の語順をなるべく反映するように訳したため、日本語としては標準的な語順になっているものもある。
- 51) なお、前述したドイツ語圏で知名度の高いクリンゴン語では、OSの順が標準となっており、〈ヨーダ語〉のように不安定ではない。Vgl. Litaer 2017: 21; Levshina 2019: 37f.
- 52) Vgl. Levshina 2019: 39f.
- 53) Vgl. Levshina 2019: 42f.; Kindersprache.
- 54) Vgl. Levshina 2019: 43.
- 55) Vgl. Löffler 2010: 118; Levshina 2019: 38.
- 56) Vgl. Scharloth 2005: 12f.; 細川2011: 154以下; Levshina 2019: 38.
- 57) 林/Duke 2002: 198以下参照。もちろん、作中で

描かれる時代や人物によっては、「時代があった」日本語訳の方がふさわしい場合もある。たとえば、清水(1988)は、フレデリック・ショパンの伝記映画に出てくるセリフが「卒爾ながらショパン殿では御座らぬか」と訳されていた例を挙げ、「十九世紀前半の人物だから[...]描かれている情景や風俗にびったりあてはまる」(清水1988:33)と評している。

- 58) この発話に関しては、Levshina (2019)は同じ場面での発話を“Help you it will.”(おまえたちを助けるそれが)としているが、映画本編に合わせ変更している。〈ヨード語〉の語順的特徴がみられる点は、Levshina (2019)と同じである。
- 59) 文2018:18参照。
- 60) 翻訳後の言語において役割語度が高くなったケースとしては、ドイツ人という設定のマンガのキャラクターが、日本語の原文ではただの「外国人らしい」言葉遣いだったにもかかわらず、(ドイツ語圏に近い)フランス語版では、日本語圏とは違いフランス語圏ではドイツ人に関するステレオタイプが確立しているため、より「ドイツ人らしさ」と結びついた言葉遣いに変更された例がある。金田2011:135以下参照。

参考文献

- 金田純平(2011):「要素に注目した役割語対象研究 「キャラ語尾」は通言語的なりうるか」金水敏(編)『役割語研究の展開』,くろしお出版,127-152ページ。
- ガウバッツ,トーマス・マーチン(2007):「小説における米語方言の日本語訳について」金水敏(編)『役割語研究の地平』,くろしお出版,125-158ページ。
- 金水敏(2003):『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』,岩波書店。
- 金水敏(2011):「現代日本語の役割語と発話キャラクター」金水敏(編)『役割語研究の展開』,くろしお出版,7-16ページ。
- 金水敏(2014a):『コレモ日本語アルカ? 異人のことばが生まれるとき』,岩波書店。
- 金水敏(2014b):「役割語とは何か——この辞典を利用する前に」金水敏(編)『〈役割語〉小辞典』,研究社, v-xvページ。
- 金水敏(2017):「言語——日本語から見たマンガ・アニメ」山田奨治(編)『「マンガ・アニメ」で卒論を書く』,ミネルヴァ書房,239-262ページ。
- 金水敏(2018):「キャラクターとフィクション 宮崎駿監督のアニメ作品,村上春樹の小説をケーススタディとして」定延利之(編)『「キャラ」概念の広がり」と深まりに向けて』,三省堂,64-83ページ。
- 金田一秀穂(2010):『ことばのことばっかし 「先生」と「教師」はどう違うのか?』,マガジンハウス。
- 定延利之(2011):「キャラクターは文法をどこまで変えるか?」金水敏(編)『役割語研究の展開』,くろしお出版,17-26ページ。
- 定延利之(2020):『コミュニケーションと言語におけるキャラ』,三省堂。
- 清水俊二(1988):『映画字幕の作り方教えます』,文春文庫。
- トーキョー“スター・ウォーズ”評議会(編)(1999):『スター・ウォーズ完全基礎講座[エピソードI篇]』,扶桑社。 [= TSC1999]
- 友井健人編(2019):『別冊映画秘宝 昭和メカゴジラ 鋼鉄凶鑑』,洋泉社。
- 林完治/Duke(2002):「特別対談」トーキョー“スター・ウォーズ”評議会(編)『スター・ウォーズ完全基礎講座I』,扶桑社,189-225ページ。
- 東義真(2012):「『スター・ウォーズ』が内包する異文化共存思想の研究 米国人映画作家ルーカスの思想と映画表現の関係性」,北九州市立大学博士学位請求論文。
- 文雪(2018):「役割語の翻訳手法」,大阪大学博士学位申請論文。
- 別冊映画秘宝編集部編(2016):『ゴジラとともに 東宝特撮VIPインタビュー集』,洋泉社。
- 細川裕史(2009):「社会語用論的語史研究とはなにか? 社会コミュニケーションとしての語史研究に関する一考察」学習院大学ドイツ文学会『研究論集』13号,67-94ページ。
- 細川裕史(2011):「コミック翻訳を通じた役割語の創造 ドイツ語史研究の視点から」金水敏(編)『役割語研究の展開』,くろしお出版,153-170ページ。
- 細川裕史(2017):「19世紀のドイツにおける「日常語」の統語構造 文学作品に基づく会話史研究の試み」学習院大学ドイツ文学会『研究論集』21号,45-64ページ。
- 宮川昌己(2002):「ヨードについて知っている二,三の事柄」トーキョー“スター・ウォーズ”評議会(編)(2002):『スター・ウォーズ完全基礎講座II』,扶桑社,8-22ページ。
- 矢地雄(2002a):「スター・ウォーズ銀河マップ」トーキョー“スター・ウォーズ”評議会(編)『スター・ウォーズ完全基礎講座I』,扶桑社,68-80ページ。
- 矢地雄(2002b):「スター・ウォーズ・ユニバースの文化」トーキョー“スター・ウォーズ”評議会(編)『スター・ウォーズ完全基礎講座I』,扶桑社,95-99ページ。
- 山口治彦(2007):「役割語の個性性と普遍性 日英の対照を通して」金水敏(編)『役割語研究の地平』,くろしお出版,9-25ページ。
- 依田恵美(2011):「役割語としての片言日本語 西洋人キャラクターを中心に」金水敏(編)『役割語研究の展開』,くろしお出版,213-248ページ。
- 依田恵美(2014):「われわれ 我々(代名詞)」金水敏

- (編)『〈役割語〉小辞典』, 研究社, 211-213ページ。
- Cherubim, Dieter (2015): Die Gleichzeitigkeit des Ungleichzeitigen in der deutschen Sprache. In: E. Neuland (Hg.): *Sprache der Generationen*. 2. Aufl. Frankfurt a. M. S.251-275.
- Duke (2002): 「『スター・ウォーズ六部作』をより楽しむためのタイムライン」トーキョー“スター・ウォーズ”評議会(編)『スター・ウォーズ完全基礎講座 I』, 扶桑社, 81-94ページ。
- Duncan, Paul (Hg.) (2020): *Das Star Wars Archiv. Die größte Kinosaga aller Zeit*. Übers. v. Thomas J. Kinne. Köln.
- Eroms, Hans-Werner (2003): Identität durch Sprache in der neueren deutschen Literatur. In: N. Janich/C. Thim-Marbrey (Hg.): *Sprachidentität-Identität durch Sprache*. Tübingen. S.137-15.
- Frizen, Werner (1986): *Carl Zuckmayer. Der Hauptmann von Köpenick*. München.
- Hosokawa, Hirofumi (2019): Sprachliche Grenze und Überschreitung. Eine Überlegung zur Rollensprache im deutschen Literaturwerk. In: *The Hannan Ronshu. Humanities & Natural Science*. 55.1. S. 1-9.
- Levshina, Natalia (2019): Universal Dependencies in a galaxy far, far away... What makes Yoda's English truly alien. In: *Proceedings of the Third Workshop on Universal Dependencies* (UDW, Syntax Fest 2019). Paris. S. 35-45.
- Litaer, Lieven L. (2017): *Klingonisch für Einsteiger*. Königswinter.
- Löffler, Heinrich (2010): *Germanistische Soziolinguistik*. 4. Aufl. Berlin.
- Mattheier, Klaus J. (1991): Standardsprache als Sozialsymbol. Über kommunikative Folgen gesellschaftlichen Wandels. In: R. Wimmer (Hg.): *Das 19. Jahrhundert*. Berlin/New York. S. 41-72.
- Scharloth, Joachim (2005): *Sprachnorm und Mentalität. Sprachbewusstseinsgeschichte in Deutschland im Zeitraum von 1766 und 1785*. Tübingen.
- 今井佐緒里 (2021.7.12): 「翻訳は難しい。。。デンベレ&グリーンズマン選手の発言の日本語訳は、どう変だったか: サッカー界の差別問題」『YAHOO! JAPAN ニュース』: <https://news.yahoo.co.jp/byline/saorii/20210712-00246775> (2021.8.19)
- 今井佐緒里 (2021.8.15): 「デンベレ氏の発言を差別と断じるべきかを考える。アジア人差別と日本の極右化【後編】サッカー問題」『YAHOO! JAPAN ニュース』: <https://news.yahoo.co.jp/byline/saorii/20210815-00246775> (2021.8.19)
- 小島剛一 (2021.7.7 [10]): 「日本人・極東人差別者デンベレとグリーンズマンを擁護する不可解な日本人」『F爺・小島剛一のプログ』: <https://fjii.blog.fc2.com/blog-entry-3034.html> (2021.8.19)
- 小島剛一 (2021.7.9): 「「ひろゆき」がF爺・小島剛一を「勉強不足の高齢者」呼ばわりしていた(本編)」『F爺・小島剛一のプログ』: <https://fjii.blog.fc2.com/blog-entry-3037.html> (2021.8.19)
- 『サッカーキング』(2021.7.4): 「醜い顔ばかりだ」バルサのデンベレ&グリーンズマンが日本人侮辱か…人種差別と物議」: <https://www.soccerking.jp/news/world/esp/20210704/1546167.html> (2021.8.19)
- 『時事通信ニュース』(2021.7.6): 「サッカー仏代表が差別発言=訪日中の動画流出で謝罪」: <https://sp.mjiji.com/article/show/2588969> (2021.8.19)
- 『スター・ウォーズ』: <https://starwars.disney.co.jp/> (2021.8.30)
- 『デイリー新潮』(2021.8.6): 「ひろゆき氏を論破した言語学者 在仏50年超の“F爺”小島剛一氏が語る日本人差別」: <https://www.dailyshincho.jp/article/2021/08060600/> (2021.8.19)
- Kindersprache*: <https://www.kindersprache.org/unit/kindersprache/home>. (2021.10.30)
- Langenscheidt*: <https://www.langenscheidt.com/shop/deutsch/humor-und-unterhaltung-witzige-woerterbuecher> (2021.9.5)
- L'Équipe* (2021.7.5 [6]): “Ousmane Dembélé, accusé de racisme, s'excuse après la diffusion d'une video” : <https://www.lequipe.fr/Football/Actualites/Ousmane-dembele-accuse-de-racisme-s-excuse-apres-la-diffusion-d-une-video/1268255> (2021.8.19)
- Levshina, Natalia (2020.10.5): Star Wars-Linguistik: Warum Yodas Englisch wirklich außerirdisch ist. In: *MPI Talking. Max Planck Institute for psycholinguistics*. Übers. v. Julia Misersky: <https://www.mpi-talking.mpi.nl/?p=100&lang=de>. (2021.8.11)
- Spiegel* (2011.10.13): Evolution des Satzbaus. Frühmenschen wie Yoda sprachen: <https://www.spiegel.de/wissenschaft/mensch/evolution-des-satzbaus-fruehmenschen-wie-yoda-sprachen-a-791473.html> (2021.8.4)

(2021年11月19日掲載決定)